

## 令和4年度後期アーバンデザインスクール第1回実績報告書

### 1. 開催日時

令和4年11月2日（水）18時30分～20時00分

参加人数: 35名（UDCBKでの視聴: 20名、オンライン: 15名）

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、15回

### 2. テーマおよび話題提供者

「今、なぜパブリックスペースの利活用なのか」

- 近年、道路空間や河川空間などの公共空間は、各地で人が楽しめる場へと生まれ変わっている。南草津でも、素敵な公共空間を創造するきっかけとなるように、多様な事例と実践的な手法を学ぶことを共通テーマとした「南草津のパブリックスペースの利活用に向けて」の第1回である。
- 第1回の本スクールは、株式会社地域計画建築研究所（アルバック） 代表取締役社長の中塚 一 氏とUDCBKセンター長で立命館大学 理工学部 環境都市工学科 教授の岡井 有佳 氏を講師に迎え、兵庫県伊丹市の中心市街地、大阪市の御堂筋のプロジェクト、フランス・パリの事例を通して、「コモンズ」をまちに取り戻す市民活動や公民連携事業について紹介いただいた。



#### 4. 話題の概要

##### (1) 中塚氏による講演

###### ア. 社会経済情勢や時代のニーズの変化

- 日本における人口減少、空き家の増加、公共インフラの維持といった社会的課題。
- 課題解決のため、コンパクト + ネットワークの都市への再構築の必要性。

###### イ. 「まちづくり」の現場で、今なにが起こっているのか

- 1980年代の行政主導型のまちづくりから、90年代の市民参加型、2000年代の地域主体型へと変遷し、2010年代からは地域事業型（エリアマネジメント）の時代に移行。
- 「つくる」から「育てる」まちづくりのために、「新しい仕組み」が必要。

###### ウ. アフターコロナ社会のまちづくり

- ヨーロッパでは「車から人中心のまちづくり」が進められてきたが、アフターコロナではこの流れが加速すると考えられる。
- 公共用地と民地をつなぐ15分生活圏の小さなコモンズ（共有地）のデザインが重要になる。

###### エ. 事例紹介

- 伊丹市: 中心市街地での人づくり（伊丹楽座） = 組織運営、まちなみづくり（伊丹百景） = デザイン、にぎわいづくり（伊丹楽市） = プロモーション、こだわりづくり（伊丹楽部） = 経済立て直し
- 御堂筋: 道路空間を再編し、人が中心となる空間のデザインに向けて社会実験を行う。
- 寺田町（大阪）: 賃貸マンションへのベンチ設置やマルシェの実施等を通じてコモンズの再生を行う。

###### オ. 地域主体でコモンズの再生を行っていくために何が必要か

- やらなければならないこと（課題）とやりたいこと（夢、想い）、できること（活動、資金）の三つが交わる「共感のまちづくり」を目指す。
- 南草津においては、例えば、人通りがない、滞留できないといった「課題」と駅前ですりたいことという「夢、想い」、そして、活動、お金をどうしていくかということを考える必要がある。
- 居心地の良い「コモンズ」を人、場、コミュニケーションのデザインによって創出していく。

##### (2) 岡井氏による講演

###### ア. Paris Plages（パリの砂浜）

- 2002年にパリの右岸で社会実験として始まる。
- 夏季の約1か月間、幹線道路の自動車通行を禁止し、セーヌ河畔に砂浜を仮設。
- まちなかにいながら、バカンスの気分を味わうことができる。
- プールができたり、様々なアクティビティが無料で楽しめたりと、年々、内容が進化していった。
- 2007年には左岸にも設置し、2017年にはセーヌ河以外にも広がっていった。

#### イ. 道路空間再編

- パリの砂浜は突発的に始められたものではなく、大気汚染対策のため、2000年代からの自動車交通量の減少を目的とする取り組みの一環である。
- 幹線道路の車線削減によって、道路を一方通行化する。ただし、バス専用レーンを設置し、公共交通を優先させる。
- 車道と歩道が併存していた通学路において車道を廃止し、歩行者専用道路とする。
- セーヌ川河岸道路では、2013年に左岸側の自動車通行を禁止し、道路空間を恒常的に人々に開放した。2016年には、右岸側でも通行禁止となる。
- 2016年5月からシャンゼリゼ通りの歩行者天国が始まり、月1回日曜日に定常的に実施している。
- シャンゼリゼ通りでは、2030年までに8車線から4車線に減らすように民間からの提案があり、計画を進めている。さらなる取組として、グリーン化（植樹）を行っている。
- 自動車を中心に歩行者が利用できなかったロータリー（広場）の中央を公園として整備することによって、人が憩える空間が創出された。ナシオン広場では、自動車の通行を停止させるブロックの設置から始まり、アスファルトの解体作業には市民が参加した。
- 自転車道も整備され、自動車に依存しない移動が奨励されている。

#### ウ. 人中心の空間づくり

- パリ市では、社会的経済的公平性、環境、観光、福祉の側面から、自動車を使わずに、15分以内の移動で生活できる都市を目指している。
- カルロス・モレノが提唱するアーバンユートピア構想では学校を地域の拠点にすることが提唱されている。
- パリではまちなかの空間を活用した共有菜園などの小さい取り組みも進んでいる。
- 日本でも、Park-PFI、河川空間の活用、不特定多数が利用できる公共空間を併存させた都市開発まで、パブリックスペースの利活用がまちなかに広がっている。

#### 5. 質疑応答等

(1) 参加者 1: 公共空間の活用について住民でどのように合意したのか。

中塚氏: 御堂筋ではボランティアのような活動から始め、「ほこみち」制度の活用などオープンな場でプロポーザルを行って進めていった。

参加者 1: どのように意見調整を実施したのか。

中塚氏: 協議会の中で意見を出し合い、地元と自治体で喧々諤々の議論を行った。

参加者 1: 自治体を巻き込むということが重要だと感じる。

中塚氏: 南草津は、学生のまちでもあるので学生のアイデアで面白いことができそうだと思う。

## 6. アンケートまとめ

参加者 35 名のうち、アンケートに回答いただいた方は 25 名だった。

### 問 1. 参加者属性

(1) 年代 (回答数: 25)

10代～20代	30代～40代	50代～60代	70代以上
9	9	7	0

(2) お住まい (回答数: 25)

草津市内に 居住	草津市内に 通勤・通学	県内他市に 居住	滋賀県外に 居住
17	4	2	2

(3) 職業 (回答数: 25)

学生	大学関係者	会社員等	その他
7	2	11	5

(4) 開催を知った手段 (複数回答) (回答数: 25)

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
4	3	1	6	2	5	4

### 問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- 自動車中心の生活が進んでいる中、人中心のまちづくりは必要であると感じました。現在行われている御堂筋の歩行者空間の社会実験などが、いい事例となり全国に広がればいいと思いました。
- 「共感のまちづくり」という言葉がとても印象に残りました。関わる全ての人と共感をし合えることが、良いまちづくりの土台になると思いました。

- 地域のコモنزが増加していけばその分滞留空間が生まれ、新しいその場所の活用が見えてくるものだと思います。
- 今回の講演では都市部の話を中心に聞くことができ、これからの公共空間を活用したまちの在り方を考えることができた。一方で地方部のまちづくりを進めていく上ではどのように公共空間を活用していくかについて聞きたかった。
- 実現可能性、地域の課題、やりたい方、この3点が共通するものを創出することは難しいと感じた。決してその共通点がうまくいくという保証がないことにも難しさを感じていた。しかし、それが最も重要なことであり頭を抱えるところかと思う。
- 日本とパリのパブリックスペースの活用について聞くことができ、非常に面白く、ためになりました。
- 草津市において、車社会、南草津駅前の賑わいがない状況があるというのが、客観的にとらえられたと思います。タイムシェアという考え方が今まで知らなくて、タイムシェアを使って社会実験ができれば良いと思いました。
- たくさんの事例が紹介されていた。決まっていく過程が分かるとありがたい。
- 草津市の中心市街地活性化計画の課題と解決法が知りたい。
- 共感のまちづくりや人と車もデータを使って折り合いをつけるなどバランスが大切だと思います。
- 実際に進んでいる御堂筋のプロジェクトがとても印象的でした。
- 南草津駅の在り方のついていろいろと考えさせられました。ありがとうございます。
- 日頃、考えていることが言語化されていて、スッキリと腹落ちした。
- 車社会、車中心という考え方が変えていけるような取り組み、仕掛けを考えていながら、コモنزを広げていく取り組みも進めていく必要がある。草津駅の中心市街地を考えていく上でもとても参考になった。
- 他の場所での事例を草津、南草津に適用するにはという話があれば良かったです。特に草津市出身の講師でしたので。
- 伊丹市での取り組み、よく理解できました。行ってみたいくなりました。御堂筋・・・先週行ってきましたが、気持ちいい空間になっていると感じました。皆さんの努力が見える形になって現れていると思います。変化を感じる人が多くなると他の街も良くなっていきますね。
- 先進地事例などで細かく解説をしていただけたので、専門家以外でも理解しやすかった。
- パブリックスペースの利活用について、国内のみならずパリの状況なども知ることが出来とても有意義な知見を頂くことが出来感謝しています。この潮流を踏まえて南草津駅周辺におけるパブリック空間の具体的な利活用について UDCBK 提案として示して頂ければと思います。また、スクール参加者などからのアイデアを募る意味でも気軽なサロン形式の集まりなど企画されるとスクールでの学びが活かされていくのではな

いかと思います。

- 中塚先生が事例としてあげられた幾つかの場所の中で、御堂筋や寺田町の事例は、特に印象に残りました。車の量の多い、また民家と商業施設が密集しているような場所で、こんな事ができるのか、と驚きました。又、私自身、南草津のパブリックスペースにも、住民が楽しく過ごせる憩いの場所が、もっと欲しいと願っています。寺田町など、南草津と似ている所があるようにも感じました。紹介頂いた事例の中で、実現する迄に、どのような問題がおき、それをどのように解決されたのか、といった具体的なお話しを、もっと聞かせて頂きたい、と思いました。

### 問3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 都市農業について聞きたいです。
- 草津市の今後のまちづくり
- 歩きたくなる歩行空間と続いて、人々がそこにとどまるという仕組み（回遊性）について好事例を出来れば国内で知りたい。
- 草津まちづくり会社の考え方と（お金の使い方）、本陣周辺のまちづくり活性化の施策がマッチしていないと思います。
- 実現できる都市計画。
- 社会実験を実施するにあたり、道路使用許可等事務的な手続きや地域や行政との調整といった実務的な内容。
- ネット中継の音声が少し不鮮明で聞こえにくいところがある。教養講座的な内容であり、これから実際の草津のまちづくりにどう取り組んで行くのかが見えにくかった。過去のUDCBKのセミナーでも同様の話は聞いたことがあるので。
- 講演は半分、ワークショップ半分の時間構成にすれば、草津、南草津に置き換えてテーマを議論できるのでは。
- 日時や長さについてちょうど良いと感じました。
- 平日の夜が来やすいです。
- UDCBKのスクール、セミナーがすぐにわかる一覧サイト（カレンダー）があればうれしいです。